

**1 科目内容・目標**

明治維新以後における日本の法曹制度から始め、現代の弁護士制度とその現実を検証しつつ、その問題点を学生との議論を通じて明らかとする。この問題点を解決するためには、我が国の法曹像は如何にあるべきかを学生自身の将来像に重ねあわせながら追求し、自己の法曹としての生き方を見極め、法曹としての覚悟を促すように授業を進めていく。特に新規法曹人口が毎年 1500 名以上生まれ、弁護士の活動分野が企業内や法廷外へ発展する現状認識を共有し弁護士間競争が必然となる時代を如何に生き抜くかを学修する。47 年間に及ぶ弁護士生活の中で担当教授が何を考え、何を実行し、何を獲得したかを生の題材として提供しながら学生の自主的かつ積極的な参加による検討を重ねる。弁護士には多様な生き方があり、個性豊かな弁護士人生を送っている現代を代表する弁護士をゲストスピーカーとしてお招きし、人生を賭けるに値する職業としての弁護士像を示し、学生達に高いモチベーションを与える。

**2 授業の基本方針**

毎回のテーマに関する参考文献・参考資料などを事前に検討しうるように工夫し、当日は主として質疑討論によって当該テーマに関する理解を深めるように努力する。

**3 成績評価**

毎回の授業における発言や随時のレポートや発表の内容など授業への取り組み(20%)と、期末試験(テイクホーム)(80%)によって評価する。成績は5段階評価(S・A・B・C・D)による。

**4 教材**

参考書(購入任意):

- 日本弁護士連合会編著刊『2017年版 弁護士白書』
- 芦原一郎著『法務の技法』中央経済社
- 本林徹編『本林塾講演録 新時代を切り拓く弁護士』商事法務
- 久保利英明著『弁護士たった3万5000人で法治国家ですか  
—弁護士がいたら、泣き寝入りしないのに』ILS出版
- 久保利英明編著『久保利 英明ロースクール講義』日経BP社
- 久保利英明著『破天荒弁護士クボリ伝』日経BP社

**5 授業計画****第1回**

日本の弁護士の歴史と弁護士が現在どのような状況にあるかを講義する。

**第2回**

前回に続行して、講義とディスカッションを行う。

### 第3・4回

現代の弁護士と司法ならびに弁護士会の抱える問題状況に関する討論。

弁護士の自治と弁護士会の在り方も含めて。

ゲスト 山岸良太 弁護士(元二弁会長・元日弁連副会長)

### 第5・6回

弁護士の大量増員時代の到来により現状が更にどのように変化するかを分析する。大都市と地方、巨大事務所とブティック型専門事務所、企業法務と人権弁護士、一般市民を対象とする弁護士、企業内での弁護士はどのように変化して行くのかを検討する。さらに新領域としての地方自治体や国の公務員、医療機関や大学教授など様々な弁護士の生き方を分類整理する方向で討論する。

ゲスト 未定

### 第7回

ゲストスピーカーとして典型的な都市型市民弁護士に我が弁護士人生を語って頂き、ともに将来展望を討論する。

ゲスト 櫻井光政 弁護士(桜丘法律事務所 所長)

### 第8回

労働弁護士から国際弁護士へ転身し、幅広い弁護士生活を展開するゲストに弁護士人生を振り返っていただく。

ゲスト 岡田和樹 弁護士(Vanguard Tokyo 法律事務所)

### 第9回

ゲストスピーカーとして活躍する若手弁護士に登場して頂き、弁護士になって良かったこと、苦しかったこと、今、努力していることなどを率直にお話し頂き、ディスカッションをする。

### 第10回

米国・韓国での勤務経験のあるゲストスピーカーを招き、米国の法律事務所や韓国の司法改革の現状と比較して、わが国の法律事務所の将来の方向性と問題点を討論する。

ゲスト 結城大輔 弁護士(のぞみ総合法律事務所)

### 第11回

急増する女性弁護士の現状と企業と人権や世界の人権活動における弁護士の活躍を考える。

ゲスト 伊藤和子 弁護士(ヒューマンライツ・ナウ事務局長)

### 第12回

刑事事件専門弁護士をゲストスピーカーとしてお招きし、現実と裁判員制度導入による新しい法廷実務を討論する。

ゲスト 神山啓史 弁護士(司法研修所 刑弁教官)

### 第13回

日本の弁護士の将来像について国際化と産業化と様々な人権問題や専門分野におけるプロフェッションとしての活動を中心に討論を行う。

### 第14回

学生自身が描く弁護士としての自分の将来像を発表し、討論する。

## 第 15 回

- (1) 弁護士の新しい業務分野としてのコーポレートガバナンスとコンプライアンス
- (2) 第三者委員会という仕事
- (3) 新しい弁護士の仕事 ex.フィンテック、仮想通貨等

試験は司法試験と同様に A4 版罫紙 3 枚以内の万年筆・ボールペンによる手書きの記述式のテイクホーム試験で行う。